



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ☎秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 「島田市役所新庁舎 現庁舎東側に機能集約し建設」

島田市役所本庁舎は、昭和37年に建設され、築57年が経過しています。耐震補強工事により一定の耐震性能は有しているものの、設備の老朽化や、大規模地震への対応などが課題となっていました。そこで、昨年10月の「市役所周辺整備基本構想」策定を受け、同月に「新庁舎整備基本計画検討委員会」および「新庁舎等整備基本計画審議会」を設置し、学識経験者や市民の皆さんのご意見をいただきました。また「未来も必要とされる市役所の姿を考えよう」をテーマに、多様な立場や幅広い年齢層の皆さんが参加するワークショップを3回開催し、議論を重ねてきました。本年5月末には審議会の答申書が提出され、審議と並行して実施したパブリックコメントを経て、「新庁舎整備基本計画」がまとまりましたので、その概要について説明させていただきます。

まず、新庁舎整備の基本方針として3つのコンセプトを策定し、それらに沿った基本的な機能を具体的に定めてまいります。①「市民の安全・安心を支える庁舎」：高い耐震性能を備えることにより、災害発生後も安定的に業務継続が図られること、また情報セキュリティ機能を十分備えることなどが求められます。②「利用者にやさしい庁舎」：戸籍・税・福祉・子育て支援など、多くの市民が利用し関連が深い部署の窓口を低層階に集約することにより、「ワンストップなサービス」を図ることを検討します。また、分かりやすい案内表示やプライバシーに配慮した設備を取り入れ、来庁者の安心感や快適性を高める設備整備を進めます。③「経済的・効率的で環境に配慮した庁舎」：イニシャルコストを抑制し、極力コンパクトでシンプルな全

体計画とし、また、ランニングコストを抑えるため、省エネルギーに寄与するシステムや建材、維持管理をしやすい構造や設備等を導入することなどが求められます。

審議会からは、「ファシリティマネジメントの観点から、ランニングコストを含め、ライフサイクルコストまでの可能な限りの削減を図ること」「木材をなるべく多く利用し、かつ地産材の活用を考慮すること」「中長期的に人口減少が見込まれる中で、他の用途に転用できるような設計を取り入れるべき」「今後の基本設計、実施設計の段階において、市民の理解と関心をさらに高め、多くの意見に耳を傾けながら丁寧に事業を進めていくこと」などの答申をいただいております。

市民の皆さんの中には「新庁舎建設はもっと後回しで良い」とのご意見があるかもしれません。しかし今後、現庁舎の老朽化などの限界が到来する時期に、市の単独財源で建設費用を賄うことは、大変厳しいと考えます。合併特例事業債（元利償還金の70%を国が交付税措置）など、資金調達面で有利な財源が活用できる今のうちに、着実な新庁舎の整備を進める必要があることを、ぜひご理解ください。

新庁舎は、今年度に基本設計、来年度に実施設計、令和3～4年度に新築工事、令和5年春の完成を目指しております。新たな庁舎が「まちづくりの拠点」として、いつまでも市民に愛され続ける庁舎となるよう努めるとともに、その事業費が他の施策や財政計画全般に影響しないよう、これからも丁寧に説明責任を果たしてまいります。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

初倉公民館で、4回目となる「はつくらこども食堂」を開催しました。3月末にオープンして以来、多くの皆さんにご協力いただきながら、食堂を運営しています。

はつくらこども食堂は、子どもの孤食をなくし、子どもたちの居場所づくり、子育て中のお母さんの息抜きの場所づくりのために始まりました。毎月、最終土曜日の正午～午後3時までオープンしています。子どもたちがご飯を食べた後も、ボランティアの中学生が宿題を教えたり、一緒に遊

んだりしながら、和気あいあいと過ごしています。

調理場の手伝いや、食材の寄付、子どもたちに勉強を教えてくださいたい人など、ボランティアを募集しています。短い時間でも、子どもたちと楽しく過ごせるお手伝いをしてもらえたら、うれしいです。（はつくらこども食堂 代表 青山朝美）

